

障がい者雇用の現場から

第2回 「企業と障がい者とのマッチングが大切」
株式会社柳家

創業40周年を迎えるラーメン店柳家。

看板商品「キムチ納豆ラーメン」は、店舗数の拡大とともに、年間15万杯を販売しています。平成19年に株式会社となり、ラーメン店の営業のほか、農園、製麺工場の運営と幅広く事業展開されています。

現在、1名の障がい者を雇用している同社の代表取締役社長、大信田和彦さん（写真・表紙）に、障がい者雇用への思いと、採用までの経緯や課題について伺いました。

障がい者雇用への思い

「経営者として、従業員一人ひとりの仕事の満足度を高めていかなければなりません。障がい者でもそれは同じ。しかし、障がい者は何でもできるわけではないので、まずは、色々な仕事を用意できる会社になりました。製麺工場もそのひとつです。障がいがあっても、本人が得意とする所で力を発揮してほしい。働くことで必要とされ、役に立っている実感を持ってほしい」

大信田さんの言葉には、障がい者雇用に真摯に取り組む姿勢を感じました。

職場実習から採用、定着まで

製麺工場で働くK・Tさんは、支援学校在学中に職場実習をしていました。職場環境や仕事内容を経験したことで、採用時から戦力になったといいます。

就職後も定期的に支援学校の先生が様子を見に来ることで、本人や従業員の不安を解消しています。それが、職場定着の1番のポイントのようです。

これからの課題

K・Tさんをいつも気にかけている社長の心配ごとがあるそうです。

「彼は、あまり愚痴をこぼさずにまじめなので、胸の内にとどめておくことはないかと考えることがあります。彼が何でも気軽に話せるような環境を作ってあげたい。これからの課題です」



看板商品「キムチ納豆ラーメン」



盛岡市大通り「さわや書店ビル3階」に店を構える総本店の店内
お昼時や週末は、大勢の来店客でにぎわう。

マッチングの大切さ

企業が必要とする職種と、障がい者が得意とすることがマッチングすれば、お互いに良好な雇用関係が生まれてくる。

取材の中で、大信田さんが繰り返していた「マッチングが大切」という言葉は、障がい者を雇用する企業の努力だけではなく、就労支援を担う私たちに対して、「あなたたちにも、努力してほしい」というメッセージにも受け取ることができました。

柳家の看板商品「キムチ納豆ラーメン」のように、長く愛されるような支援をめざして。私たち「らいふ」も粘り強く支援を続けたいと思います。

株式会社 柳家

〒020-0824 岩手県盛岡市東安庭1-12-23
TEL：019-654-8878 FAX：019-654-8878

「すべてのひとがいきいきと自分らしくいきていける地域社会づくり」

社会医療法人 智徳会
未来の風せいわ病院
介護老人保健施設 康楽苑

理事長 智田 文徳 病院長・施設長 田嶋 宣行

岩手県盛岡市手代森 9-70-1 TEL:019-696-2055



当院では、就労・復職や社会参加を応援しています